

第 195 回執行委員会での門司大使スピーチ

スピーチを始めるにあたってユネスコ創設の精神、すなわち「平和」という、今日の不安全、不安定、不確実な世界においてより一層重要となる言葉を想起したい。

本年ノーベル平和賞の受賞が決まったマララ・ユスフザイ氏が以前引用した、「ペンが剣よりも強し」という言葉は、本とペンを駆逐しようとする過激主義者に対し特別な響きを持つものである。

日本は教育の重要性を強く支持する。その観点から、安倍総理が先般の国連総会で述べた『人の心から「ウォー・カルチャー」をなくすために労を惜しまない』という言葉ここに引用したい。

教育はまた、持続可能な社会の構築にも重要な役割を果たす。我々は、次世代の子供に対し、いかに持続可能な社会を創造していくか、教育を通じて伝えていかなければならない。

この考えの下、日本は来月、ESDに関するユネスコ世界会議を愛知県名古屋と岡山にてユネスコと共催する。同会合では、2015年以降のESDの推進方策を示したグローバル・アクション・プログラムの具体的な実施に向けて議論が行われ「あいち・なごや宣言」を採択する予定。本会議にはすでに90か国以上から閣僚級の参加表明をいただいております。開催国として会議の成功に向けあらゆる努力を尽くしていきたい。

それでは、3つの重要イシューについて述べたい。

日本は、ユネスコがポスト2015年開発アジェンダ策定において重要な役割を担っていると評価すると同時に、引き続きポスト2015年開発アジェンダの教育ターゲットとポスト2015年教育アジェンダとの一貫性を確保する橋渡しの役割を期待。日本は防災分野（disaster risk reduction）も含む持続可能な開発における文化の役割を、教育・科学の役割とともに認識。

次に我が国では、安倍総理が「女性が輝く社会の実現」を主要政策課題として掲げ、国内外で女性のエンパワーメントを支援しており、ユネスコのジェンダー平等に向けた取組みを強く支持。

また、ユネスコのGlobal Priority Africaに関しては、基礎教育、技術・職業教育、科学技術、水資源管理等の比較優位を有する分野で取組みが一層強化されることを期待。我が国も引き続きこれらの分野でTICADプロセスを通じて貢献していきたい。

事業について述べたい。

科学については、例えばその普及により世界の照明に革命的な効率化をもたらしつつある照明用のLEDに注目したい。これは、我が国出身の科学者がその

発明によって本年のノーベル物理学賞を受賞したからではなく、科学による持続可能な発展への貢献を実証しているからである。こうした点も踏まえ、日本は「サステナビリティ・サイエンス」への強い支持を改めて表明したい。

ユネスコは水科学、海洋科学、生態系、生命倫理、社会変容のマネジメント等の分野で他の国際機関に対して比較優位を有しており、更に関与を強化していくべきである。我が国は、財政的貢献及び専門家派遣による人的貢献を通じ、ユネスコの水科学分野の洪水対策支援、海洋科学分野における津波警報システム構築等の取組に協力している。

文化分野では、ユネスコは文化関連条約の運用上の諸課題に引き続き積極的に対応していくべき。我が国は、これらの取組に積極的に貢献いくとともに、ユネスコへの信託基金拠出を通じた文化財保全への支援を継続したい。世界遺産条約については、ノミネーション評価プロセスの透明性を強化、諮問機関と提出国の対話プロセスの整備、文化的多様性に対応した評価体制といった課題に対応していく必要がある。

最後に行財政について述べたい。

現下の厳しい財政状況の下、ボコバ事務局長の強力なリーダーシップにより、人員再編計画と費用節減の取組が着実に実施されてきたことを高く評価。次期38C/5予算の策定に当たっては、RBMの導入と併せ、予算策定プロセス及び予算技術の実質的改善が必要。また、事務局トップのリーダーシップの下、組織全体の効率化と更なる合理化・費用節減に向けた改革努力を強力に推進するべき。同時に、歳入ベースの拡大も重要であり、資金動員戦略を強化するとともに、分野毎に数値目標、重点事業を明記するよう事務局に求める。

我が国はボコバ事務局の改革努力を引き続き後押しするとともに、貢献を続けていく。ユネスコの各事業が効果的かつ効率的に運営され、国際社会の中で確固たる役割を果たせるよう、今期執行委員会で充実した議論が行われることを期待している。